

史跡古津八幡山 弥生の丘展示館 2019 年度企画展3

邪馬台国の時代7

弥生時代後期の北越と北陸・長野との交流 —天王山式土器から考える—

解説パンフレット

会期 2019 年 11 月 6 日 ～ 2020 年 3 月 29 日

企画展の開催にあたって

古津八幡山遺跡には縄目文様がつけられた弥生土器があります。これらは、おもに東北に分布する「天王山式土器」と言われる不思議な土器です。この天王山式土器は、東北から遠く離れた北陸や長野でも見つかり、当時の人々の交流を示す証拠になっています。

東北や阿賀北（新潟県の阿賀野川以北）で作られたと考えられる天王山式土器が、北陸の富山・石川・福井や長野県北部で出土します。この頃、東北や阿賀北の人々が、何かを求めて北陸や長野県北部へ行ったと考えられます。

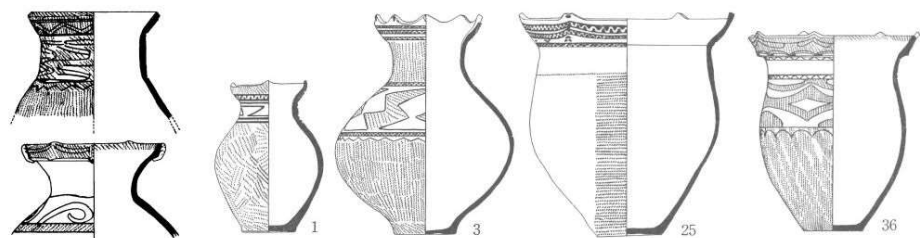
弥生時代後期初め（紀元 1 世紀）、ちょうど古津八幡山遺跡が成立する頃の事です。また、北陸で多く見つかり、当時の激動の社会の動態を探ります。

—天王山式土器—

天王山遺跡 福島県白河市大字久田野字豆柄山

遺跡は阿武隈川と高橋川の間に残丘状にある独立丘陵の頂上に位置する。標高 407m、阿武隈川との比高差は約 80m である。1950 年に発掘調査が行われ、完形土器が多数出土した。本遺跡出土土器を標識として東北南部の弥生時代後期の土器型式「天王山式」が設定されている。

類似する土器は東北南部から北部に広く分布する。天王山式分布範囲の外郭圏としては、北海道南部や北陸にも分布する。重要な点は、天王山遺跡は、古津八幡山遺跡と同じ高地性集落であること（遺跡の性格がよくわからないが）、天王山式土器分布圏の太平洋側の南限に近い位置にあるという点である。

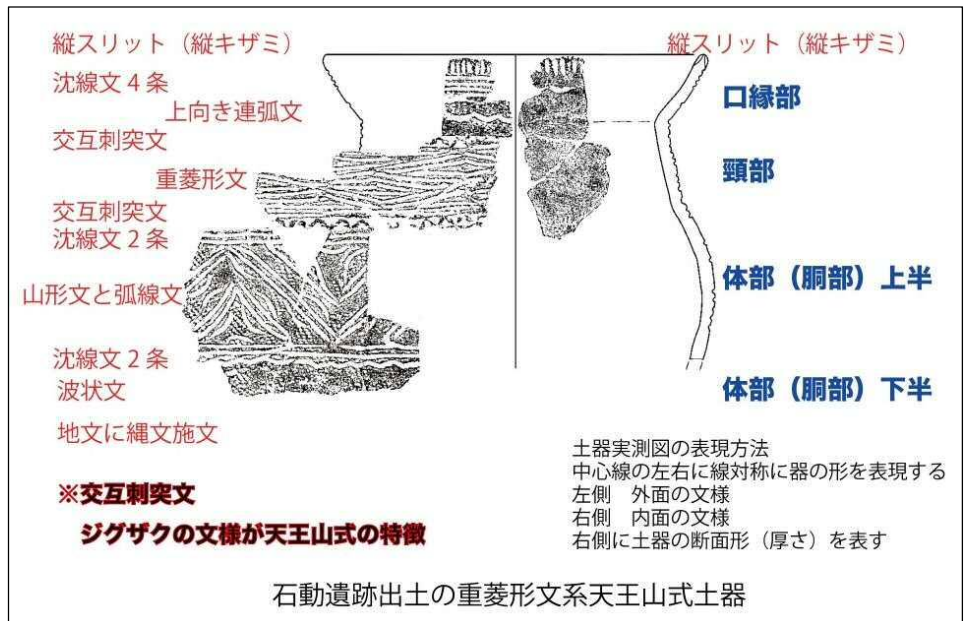


—新潟市石動遺跡の重菱形文系天王山式土器—

この企画展開催のきっかけは、本遺跡出土の 1 点の弥生土器にある。体部下半を欠損する破片資料であるが、器形や文様帯、文様を復元できる。その土器は、復元口径 20cm 程の甕形土器で、文様帯は口縁部・頸部・体部上半に分かれ、文様帯間は天王山式土器の特徴の一つである「交互刺突文（こうごしとつもん）」で界されている。口縁部は内湾し、口縁端部内外面には縦の刻み（スリット）が入る。口縁部外面にはスリットの下に 4 条の平行沈線が引かれ、さらにその下に上向きの連弧文が入れる。本資料を特徴づける最も重要な点は、頸部に入れられた「重菱形文」と、その下にある体部上半の「山形文」である。2 本線で描かれた山形文には弧状の沈線が添えられるとともに、山形文の底辺は直線ではなく、末端を

くると内側に纏める。

福島県白河市天王山遺跡の天王山式土器は、頸部無文が一般的である。その中であって頸部に入れられる文様の一つに「重菱形文」がある。また、頸部に重菱形文が入れられた土器の体部上半には、本資料のように山形文の他に「S 字状連繋文」や「円形と台形の組み合わせ文様（仮称 円台形連結文）」など限られた文様が組み



合わさる。

—富山県の天王山式土器—

36 遺跡で確認されている。点数約 550 点と石川県内の出土点数を凌駕する。新潟県内で柏崎から糸魚川まではほぼ空白域なので、現在の分布状況を見ると、この地域を越えて富山にもたらされたと考えられる。魚津市佐伯遺跡 130 点、高岡市頭川遺跡約 70 点、下老子笹川遺跡約 130 点、氷見市正保寺遺跡 26 点など、まとまって出土している遺跡があり、石川県内では見られない現象。また、地元主体の土器群に天王山式土器が数点出土する遺跡だけではなく、地元の土器群をほとんど混じえずに、天王山式土器だけが出土する遺跡があり（頭川遺跡、下老子笹川遺跡- 福岡町調査地点-、正保寺遺跡）、新潟県の阿賀野川以北から集団が移住し、地元集団とは別に生活をしていたと考えざるをえないような状況を示している。



天王山式土器でも頸部に重菱形文を入れる土器が 15 遺跡で出土している。全体の 4 割以上を占めており、日本海側の特徴と言える。また、口縁部に「ハ」状の刻みを入れる土器も目立つ。下老子笹川遺跡の恵山式系土器のように、東北北部に類似する土器が見られ、当該地域から直接に北陸にやって来た集団もいたと考えられる。

高岡市下老子笹川遺跡と氷見市加納谷内遺跡の重菱形文土器は、頸部文様帯に重菱形文、体部上半には山形文やS 字状連繫文などを入れる。類似する土器は、日本海側を中心に広域に分布している。



佐伯遺跡・江上 A 遺跡・浦田遺跡
四方背戸割遺跡・戸破若宮遺跡・布目沢北遺跡
頭川遺跡・加納谷内遺跡

重菱形文の下、体部上半の文様帯に S 字状連繫文等の文様が入るものが見られる

富山県出土の重菱形文系 天王山式土器

下老子笹川遺跡 富山県高岡市福岡町ほか

遺跡は小矢部川の支流である荒又川と祖父川に挟まれた佐野台地上に立地し、標高は約 14～18m を測る。本発掘調査は能越自動車道や北陸新幹線の建設などに伴い、(財) 富山県文化振興財団や旧福岡町教育委員会によって 6 回行われている。弥生時代は前期から終末まで継続しており、当該地域の中核的な遺跡と言えよう。後期には南北 250m×東西 150m の範囲に集落が広がり、周溝をもつ堅穴住居 15 棟、堅穴住居 8 棟、周溝をもつ平地式建物 4 棟、掘立柱建物や周溝遺構・道路・溝・土坑などが見つかっている。



130 点以上の天王山式土器、アメリカ式石鏃等が出土している。能越自動車道地点 B7 地区 SI19 堅穴住居からは後期前半の在地系土器に伴って、天王山式土器が出土しており、古津八幡山遺跡同様に、両者の併行関係が検証された。近接する自然流路 SD4001 から 31 点の天王山式土器が出土している。また、約 200m 西の旧福岡町調査地点では、在地系土器を混じえずに天王山式土器だけが出土し、長野系の吉田式土器が伴う。旧福岡町調査地点及び新幹線調査地点では重菱形文系天王山式土器が多く、注目される。



— 石川県の天王山式土器 —

40 遺跡で確認されている。点数約 200 点と僅かである。地域的に見ると、能登半島で 30 遺跡、加賀で 10 遺跡で出土している。能登半島では七尾市から羽咋市にかけての邑知潟地溝帯周辺に多く見られ、七尾湾周辺から南に拡散したかのような分布状況を示す。

弥生時代後期に、地元で作られた土器には縄文を施文したり、沈線で文様を描いたりする土器は基本的にない。石川県内の遺跡から出土した天王山式土器は 1 遺跡数個体にすぎず、富山県高岡市下老子笹川遺跡のような天王山式土器が主体を占める遺跡はない。

天王山式土器のなかで、重菱形文系土器は 13 遺跡で出土しており、全体の 3 割以上にもなる。当該地域の天王山式土器の出自を示しており、これらの天王山式土器は、日本海を南下してきた集団が残したものと考えられる。

天王山集団は地元の集団との関係はどのようなものだったのだろうか？

白水モンショ遺跡では器形は地元の土器に似るが、器面に縄文を施文したいわゆる折衷土器がある。同様な土器は羽咋市吉崎次場遺跡や金沢市西念南新保遺跡でもあり、地元集団と接触して暮らしていたことを示している。

また、中能登町大槻 3 号墳からは天王山式系の甕と地元の高杯がともに出土しており、地元集団と共に墓前祭式に参列していた様子が見える。



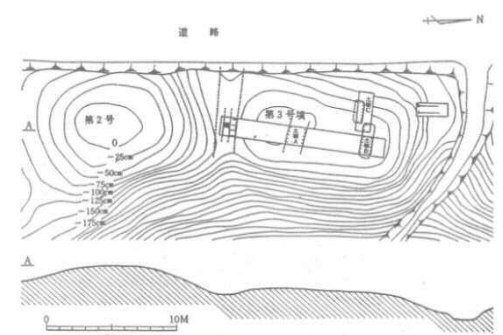
通ジツハナ遺跡・オカ遺跡・定林寺遺跡・万行遺跡
矢田遺跡・中相川遺跡・四柳白山下遺跡

石川県出土の重菱形文系 天王山式土器

大槻 3 号墳 石川県中能登町

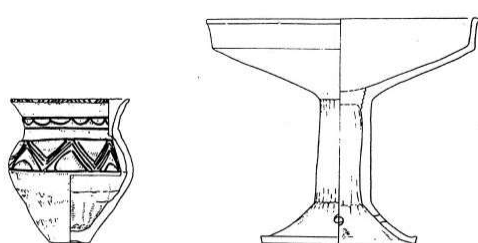
地元首長の墓前祭式に、地元のムラ長だけではなく、東北系集団も参列したと考えられる貴重な事例。

古津八幡山遺跡の方形周溝墓でも、北陸系・東北系・地元系の 3 系列の土器群が出土している。



天王山式系土器には、東北系の要素として、頸部の長い甕形の器形や沈線文様がある。器面調整など地元の要素も入っており、いわゆる折衷土器と考えられる。

頸部を無文とせずに連弧文を入れる手法は青森県など東北部に多く、口縁端部のハの字状キザミも東北日本海側や北越に多い手法である。



大槻 3 号墳から出土した在地の高杯と
天王山式系の甕（後期前半）

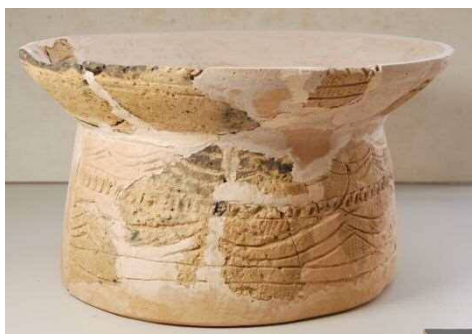
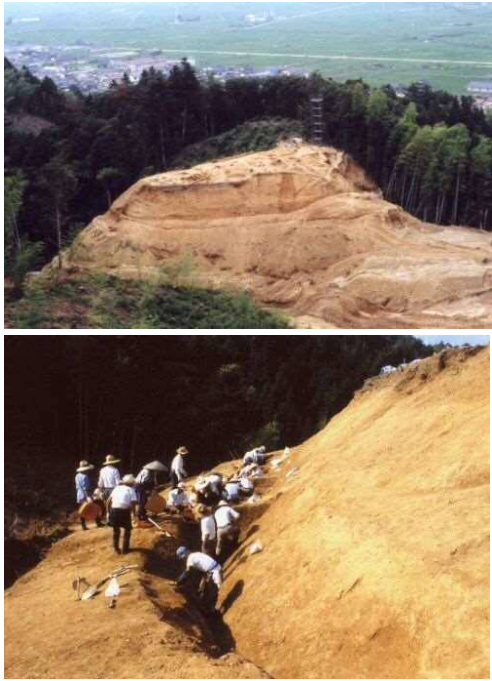


杉谷チャノバタケ遺跡 石川県鹿島郡中能登町金丸ほか

遺跡は邑知潟地溝帯北側の丘陵部から谷部にかけて立地し、範囲は東西 350m、南北 80m、標高約 60～110m に所在する。平地との比高は約 50～100m を測る。本発掘調査は、昭和 62・63（1987・1988）年、石川県立埋蔵文化財センターによって行われ、弥生時代の高地性環濠集落を主体とした遺跡であることが判明した。

遺跡は大きく 3 地区に分けられ、A 地区では中期後半の竪穴住居 2 棟と後期の環濠 1 条が検出され、環濠からは 20 点以上の天王山式土器が出土している。展示品 2 点はこの環濠出土である。B 地区では中期後半の竪穴住居 3 棟や段状遺構・土坑、終末期の竪穴住居 2 棟、段状遺構がある。C 地区では中期後半の竪穴住居 3 棟や環濠 1 条・土坑・段状遺構、後期後半の竪穴住居 1 棟や土坑・段状遺構、終末期の竪穴住居 1 棟が見つかった。

遺跡を、現在の研究成果に基づいて評価すると、後期前半から終末にかけての高地性環濠集落で、A 地区第 1 号環濠では後期前半の在来系土器に天王山式土器が伴ったと考えられる。なお、壺形土器の文様は大槻 3 号墳出土の甕形土器と酷似する。

**国史跡 万行遺跡** 石川県七尾市万行町

遺跡は赤星川と臼池川に挟まれた七尾南湾を臨む台地上に立地し、標高は 7m 前後である。本発掘調査は土地区画整理事業の計画に伴い、平成 10（1998）年度から七尾市教育委員会により進められた。調査の結果、弥生時代後期の集落と、古墳時代初頭頃の大形掘立柱建物群が検出された。

東北系土器は中期後半の川原町口式土器、40 点程の天王山式土器などがある。石川県内における 1 遺跡の天王山式土器の出土点数としては最も多い。天王山式系土器は重菱形文系土器のほか、地文が RL、無文が目立つ。

古墳時代初頭の大形掘立柱



建物は、南北 74m・東西 39m 以上の二重の溝に区画された中に 6 棟検出され、倉庫あるいは祭殿の可能性が指摘されている。また、大形掘立柱建物群の廃絶直後に一辺 22.5m、幅 1.2m・深さ 0.5m の方形区画が造られており、首長居館の機能が考えられている。

本遺跡は七尾湾に面した台地上に立地しており、多数出土した天王山式土器から北方へも門戸を開いた港湾として、弥生時代後期前半からも機能していたと推察される。

吉田高校グランド遺跡 長野市吉田

遺跡は善光寺から北西に 2.5km ほどの県立長野吉田高校にある。飯縄山を水源とする浅川によって形成された扇状地の扇央に立地し、標高は約 390m。昭和 45（1970）年のプール建設に伴う発掘調査で集落遺跡が発見された。調査では多量の土器が出土し、弥生時代後期初頭の土器型式「吉田式」が設定された。その後も数回の発掘調査が長野市教育委員会により行われ、これまでに竪穴住居が 30 棟以上見つかった。



3 次・4 次調査で、吉田式土器とともに東北系土器 18 点とアメリカ式石鏃 6 点が出土した。吉田式との折衷土器が多く、地元で作られた土器が大半である。これらの東北系土器の搬入ルートは、重菱形文系土器を根拠に考えると、重菱形文系土器の多い北陸経由の可能性が高い。富山県高岡市下老子笹川遺跡（福岡町調査地点）で多数の重菱形文系土器に伴って吉田式土器が出土しており、双方向の人の移動があったことを示している。

中期末から後期初頭、天王山式土器成立期における広域の人や物（特に金属器）・情報伝達を示唆する極めて重要な遺物である。

**おわりに**

古津八幡山遺跡が成立する弥生時代後期（紀元 1 世紀頃）、東北に広く分布する天王山式土器やその影響を受けて作られた縄文の施文された土器が、富山県や石川県などの北陸地域、長野県北部にも一定量出土している。これらの天王山式土器は、頸部文様帯に重菱形文を入れる土器が多いことが特徴としてあげられる。類似する土器は青森から新潟県の日本海沿岸域に多く分布する。

重菱形文系天王山式土器の分布状況を見ると、内陸部では少なく日本海沿岸域に多いので、日本海を介してもたらされたと考えられる。また、文様などから、新潟県内で出土している天王山式土器よりも、東北北部で出土する天王山式土器に類似する土器もあり、青森県下北半島などから直接北陸へやってきた集団がいた可能性がある。彼らが何を目的として遠く北陸まで来たのかを解明するのは難しいが、鉄・玉・コメなどを求めてやってきたのではないかと推察している。想像をたくましくすれば、物々交換したものはサケ・マスなどの魚介類や毛皮など有機質のものだったのではないだろうか。各地の天王山式土器を観察すると、スス・コゲが厚く付着する土器が多い。これらの分析をすることによって解決の糸口が見えるかもしれないと考えている。

また、天王山式土器を見ると、日本海ルートの他に北陸～長野～群馬～茨城へ通じる内陸ルートがあった可能性がある。重菱形文系天王山式土器の次の時期（後期中頃）に、富山県魚津市佐伯遺跡と茨城県大洗町鬚釜（ひいがま）遺跡で酷似する鉢形土器が出土している。また、鬚釜遺跡に近接する一本松遺跡では竪穴住居から在地の十王台式土器に伴って巴形銅器が出土し、さらに明戸式土器（天

王山式土器に後続する土器型式)が出土している。ルート上には、当該期よりも古い群馬県吉井町長根安坪遺跡のS字系連繫文を入れた壺形土器(重菱形文系天王山式土器の可能性が高いが頸部文様帯を欠く)や、長野県上田市武石の巴形銅器、佐久市北一本柳遺跡の板状鉄斧など点在しており、日本海側から銅や鉄がもたらされた可能性が考えられる。

今回の企画展では解明には至らなかったが、重菱形文系天王山式土器には、頸部の重菱形文の下文様(体部上半の文様)として連弧文以外に、山形文・S字形連繫文・円台形連結文などの特徴的な文様が用いられることがわかった。これらは日本海沿岸域に分布する重菱形文を施す土器に、各地の文様要素が組み合わさって作られた土器と考えられ、この系列の土器群を見ただけでも当時の広域に

わたる人やモノの交流を垣間見ることができる。このような激動の時代、ほぼ同じ時期に天王山式土器分布圏の外郭圏に近い場所に高地性集落である福島県白河市天王山遺跡と新潟市古津八幡山遺跡が成立する。

※ 本来「天王山式土器」は、白河市天王山遺跡で出土した土器を基準に設定された土器型式なので、地域的にも時期的にも限定的に用いられるべき土器型式と考えますが、説明が複雑になるために、本企画展では広い意味で使用しています。時空を超えて使用されている便利な土器型式名ですが、そのことがかえって地域差や時期差を分かりにくくしています。



企画展関連遺跡（縮尺任意）

国土地理院発行50万分の1 地方図「東北」「関東甲信越」「中部・近畿」をもとに作成したものを部分拡大したものである

企画展展示資料（遺物）の遺跡

富山県	
遺跡名	所在地
佐伯遺跡	魚津市
江上B遺跡	上市町
江上A遺跡	上市町
飯坂遺跡	上市町
浦田遺跡	船橋村
二ツ塚遺跡	立山町
四方背戸割遺跡	富山市
布目沢北遺跡	射水市
下老子笹川遺跡	高岡市
頭川遺跡	高岡市
加納谷内遺跡	氷見市

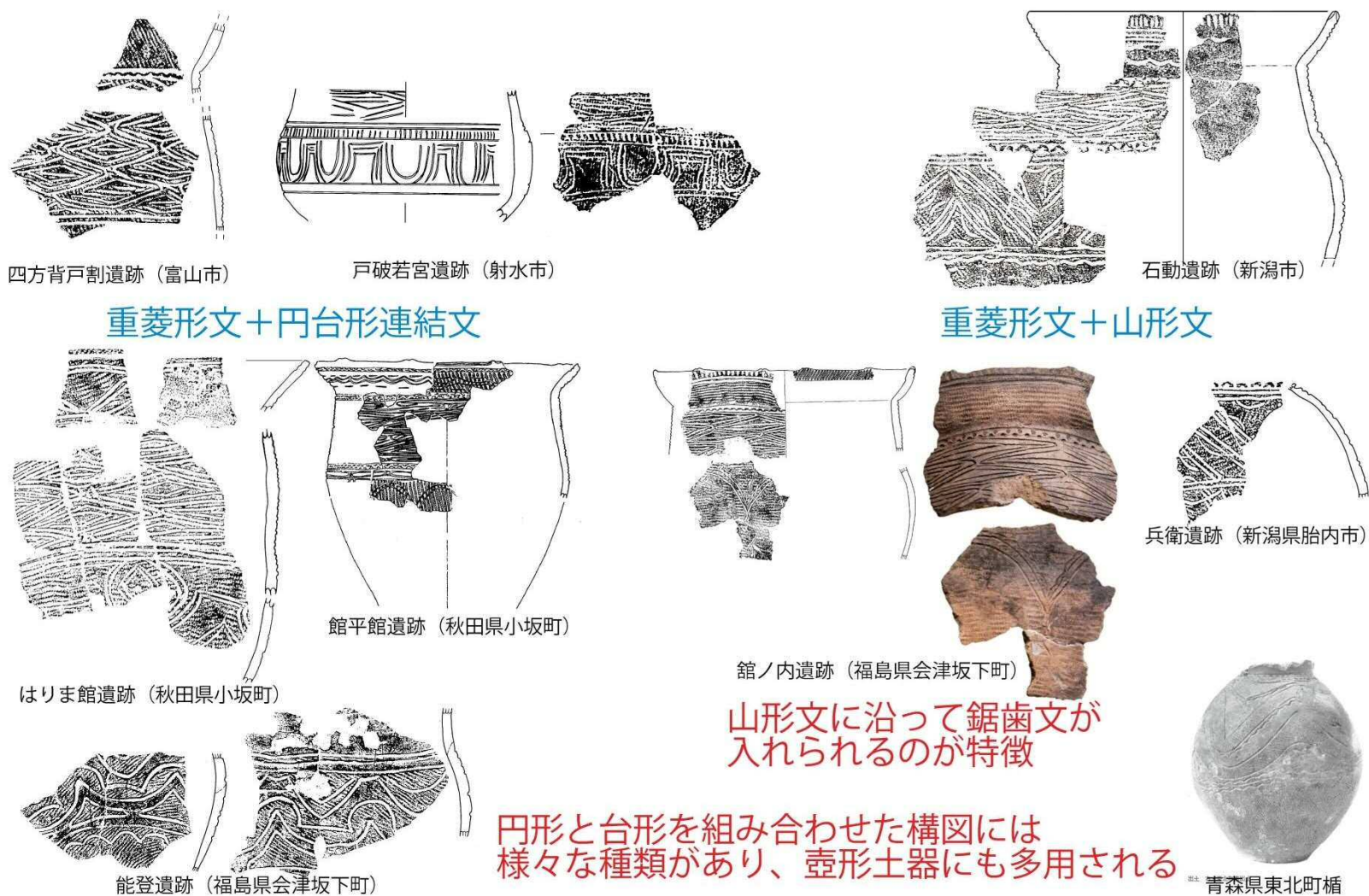
石川県	
遺跡名	所在地
矢田遺跡	七尾市
万行遺跡	七尾市
通ジソハナ遺跡	七尾市
定林寺前遺跡	七尾市
オカ遺跡	七尾市
大槻3号墳	中能登町
水白モンショ遺跡	中能登町
杉谷チャノバタケ遺跡	中能登町
中相川遺跡	白山市

長野県	
遺跡名	所在地
吉田高校グランド遺跡	長野市
松原遺跡	長野市

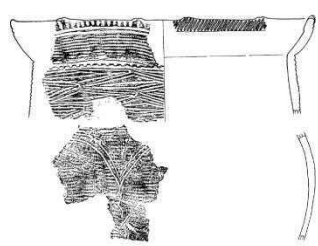
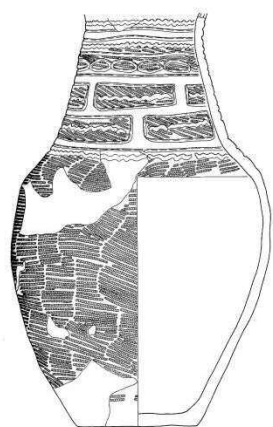
新潟市	
遺跡名	所在地
松影A遺跡	北区
石動遺跡	東区



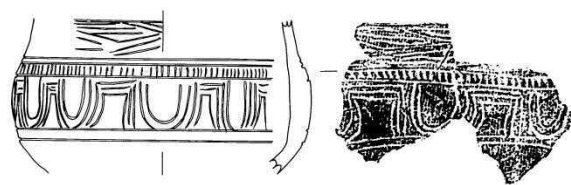
北陸・長野の天王山式土器の系譜（S字状連繋文の系譜）



北陸の天王山式土器の系譜（円台形連結文、山形文の系譜）



館ノ内遺跡（福島県会津坂下町）

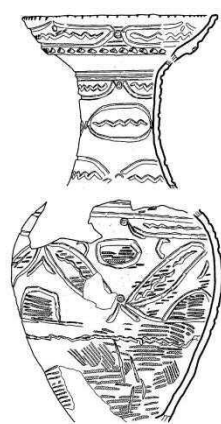


戸破若宮遺跡（射水市）

赤彩された壺形土器
後期後半には、それ以前まで無文だった
頸部に文様が入れるようになる

館ノ内遺跡の壺に、甕の体部上半の文様を
取り入れて桜町遺跡の壺の文様が成立する

館ノ内遺跡も桜町遺跡も斜線に沿えられた
鋸歯状の文様があり、系譜を追える

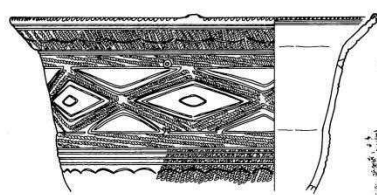


桜町遺跡（福島県湯川村）

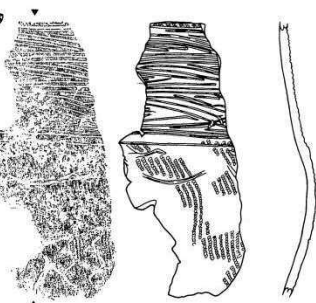


桜町遺跡では後期後半になると、
北陸由来の文化要素の比率が
高まっていく

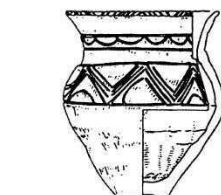
北陸の天王山式土器の系譜（体部上半の構図は後期後半に引き継がれる）



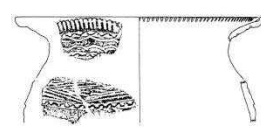
下老子笹川遺跡（富山県高岡市）



下老子笹川遺跡（富山県高岡市）



大槻3号墳（石川県中能登町）



浦田遺跡（富山県舟橋村）



二ツ塚遺跡（富山県立山町）

杉谷チャノバタケ遺跡
（石川県中能登町）

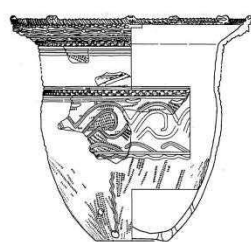
菱形の充填縄文
恵山式の模倣

垂下する鋸歯文

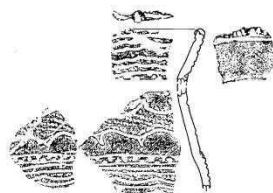
頸部文様帯の小連弧文

東北北部は頸部文様帯を
無文にしない

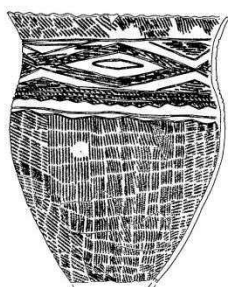
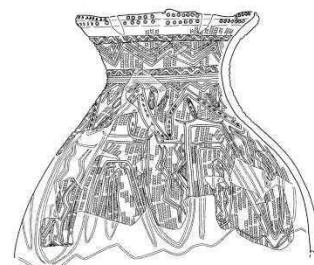
口縁端部の刺突列
や交互刺突文



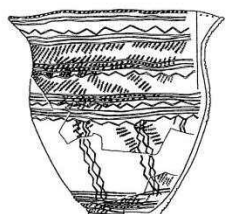
石動遺跡（新潟市）



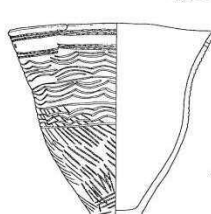
館の上館遺跡（秋田県三種町）



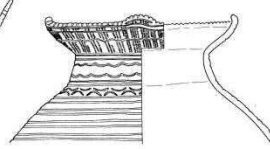
大石平遺跡（青森県六ヶ所村）



大石平遺跡

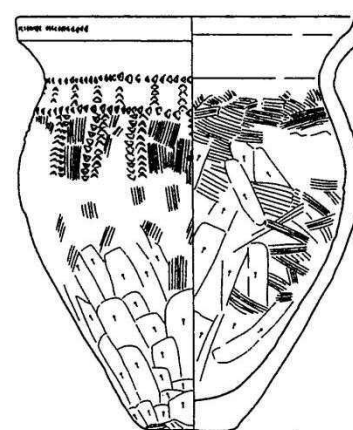
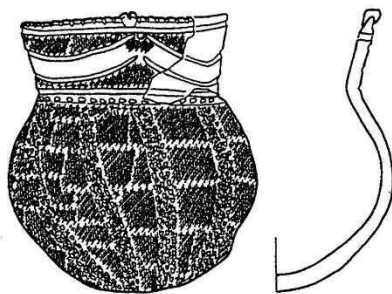
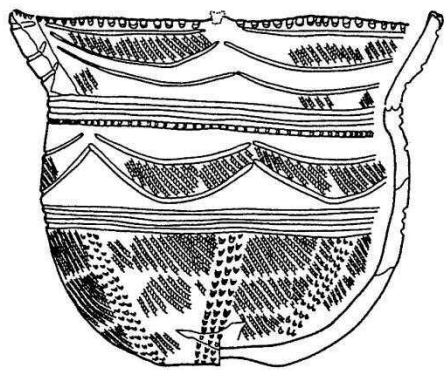


千歳13遺跡（青森県六ヶ所村） 蛭沢遺跡（青森市）



家ノ前遺跡（青森県六ヶ所村）

北陸の天王山式土器の系譜（東北北部からの要素）

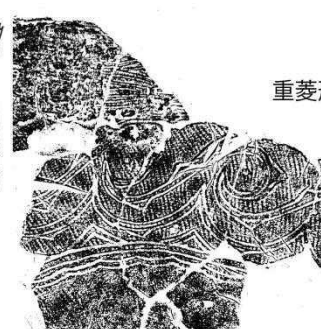
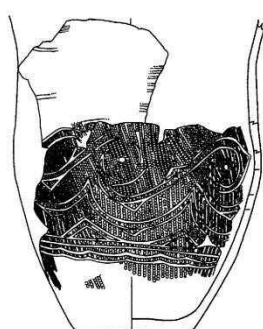


大石平遺跡（六ヶ所村）

井口本江遺跡（高岡市）

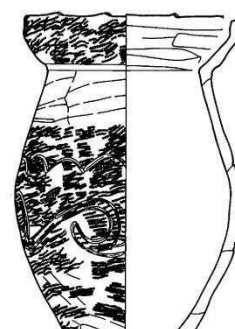


富山県井口本江遺跡の刺突列のある北陸系土器と
青森県大石平遺跡の刺突列のある土器



重菱形文

S 字状連繋文



後期前半

S 字状連繋文

加納谷内遺跡（富山県高岡市）

吉田高校グランド遺跡（長野市）

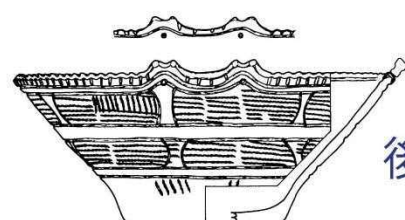
長根安坪遺跡（群馬県高崎市）

北陸

長野・群馬

茨城

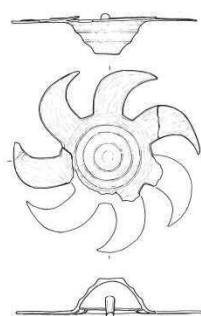
重菱形文と S 字状連繋文の系譜
長根安坪遺跡では頸部の重菱形文を欠く



佐伯遺跡（富山県魚津市）

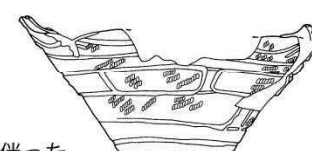
後期後半

酷似する佐伯遺跡と髭釜遺跡
の浅鉢。
近接する一本松遺跡では同一の
竪穴住居から巴形銅器と
天王式系土器が出土。



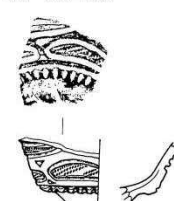
長野県上田市武石

地元の十王台式に伴った



明戸式土器

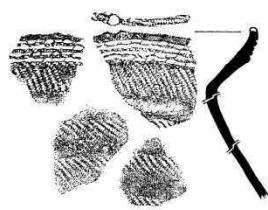
髭釜遺跡（茨城県大洗町）



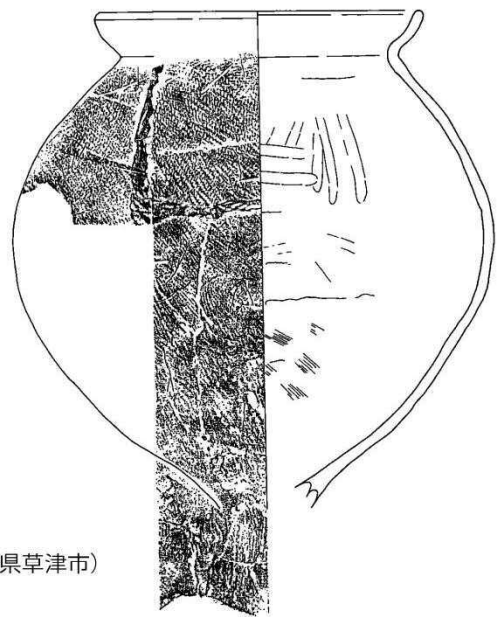
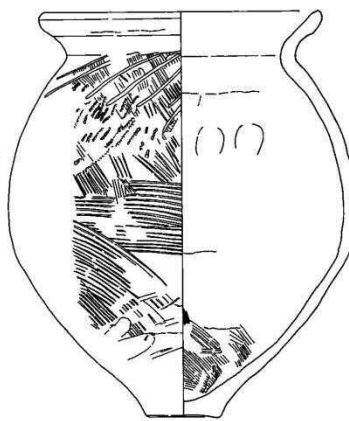
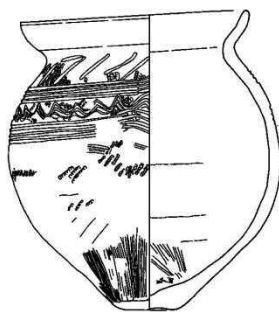
一本松遺跡（茨城県大洗町）



一本松遺跡（茨城県大洗町）

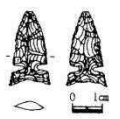


持明寺遺跡（福井県鯖江市）



中兵庫遺跡（滋賀県草津市）

地元の土器の器形・文様・調整技法に
縄文が施文されたいわゆる折衷土器
持明寺遺跡・中兵庫遺跡（右側 1 点）は RL 縄文
が施文され、天王山式系との折衷であることがわかる
北陸系統と考えられる



アメリカ式石鏃

芝生遺跡（大阪府高槻市）

基部にえぐりのある石鏃
ネイティブアメリカンが類似する形の石鏃を
使用していたことに由来し、アメリカ式石鏃
と名付けられている
天王山式土器と共に出土することが多い。



西日本出土の東北系遺物（弥生時代後期～古墳時代初頭）

関連講演会

演題 「弥生時代における北陸地方西部と下越地方の交流」

講師 久田 正弘 氏（石川県埋蔵文化財センター グループリーダー）

日時 2019 年 11 月 17 日（日） 13 : 30～15 : 30

会場 新潟市文化財センター（展示会場とは異なります）

定員 80 名（申込み不要 直接新潟市文化財センターへお越しください）

本企画展の開催にあたって、下記の個人・機関等よりご協力いただきました。（各五十音順 所属・敬称略）

赤澤徳明 石川日出志 上野章 岡本淳一郎 風間栄一
北林雅康 小林克 坂下博晃 笹澤正史 佐藤祐輔 鈴木素行
杉山大晋 野田豊文 久田正弘 細辻嘉門 山川史子
吉田博行

会津坂下町埋蔵文化財センター 石川県埋蔵文化財センター
高岡市教育委員会 富山県埋蔵文化財センター
富山市埋蔵文化財センター 長野市埋蔵文化財センター
七尾市教育委員会 中能登町教育委員会

センター職員による展示解説

日 時 2019 年 11 月 10 日（日）

2019 年 12 月 8 日（日）

いずれも 13 : 30～15 : 30

申込み 不要（直接弥生の丘展示館へお越しください）

主催・お問い合わせ先

新潟市文化財センター TEL 025-378-0480

〒950-1122 新潟市西区木場2748-1 FAX 025-378-0484

<http://www.city.niigata.lg.jp/kanko/bunka/rekishi/maibun>

2019 年 11 月 6 日発行 新潟市文化財センター